

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年8月3日(2006.8.3)

【公表番号】特表2005-529936(P2005-529936A)

【公表日】平成17年10月6日(2005.10.6)

【年通号数】公開・登録公報2005-039

【出願番号】特願2004-510532(P2004-510532)

【国際特許分類】

A 0 1 N 43/54 (2006.01)

A 0 1 N 37/06 (2006.01)

A 0 1 N 43/90 (2006.01)

A 0 1 N 47/06 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 43/54 G

A 0 1 N 37/06

A 0 1 N 43/90 1 0 3

A 0 1 N 43/90 1 0 4

A 0 1 N 47/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月9日(2006.6.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

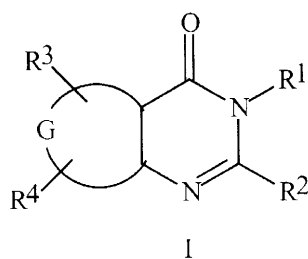
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(1) 式 I

【化1】



〔式中、

Gは縮合されたフェニル、チオフェンまたはピリジン環であり、

R¹はC₁～C₆アルキルまたはC₄～C₇シクロアルキルアルキルであり、

R²はC₁～C₆アルキル、C₁～C₆アルコキシまたはC₁～C₆アルキルチオであり、

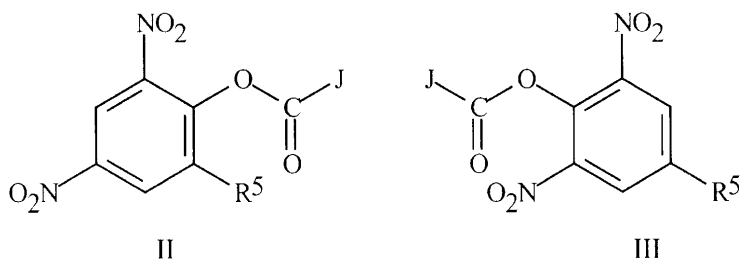
R³はハロゲンであり、そして

R⁴は水素またはハロゲンである〕

の縮合されたピリミジノン類、N-オキシド類、およびその適する塩類から選択される少なくとも1種の化合物と、

(2) 式 I I の化合物および式 I I I の化合物

【化 2】



〔式中、

JはC₁～C₆アルキル、C₁～C₆アルコキシまたはC₂～C₆アルケニルであり、そしてR⁵はC₁～C₈アルキルである〕

よりなる群から選択される少なくとも1種のジニトロフェノール化合物とを含んでなる殺菌・殺カビ組成物。

【請求項 2】

成分(2)がジノカップにより供給される請求項1に記載の組成物。

【請求項 3】

成分(1)が、

6-ヨード-3-プロピル-2-プロピルオキシ-4(3H)-キナゾリノン

を含んでなる請求項1に記載の組成物。

【請求項 4】

(3)うどんこ病の防除に有用であるが、成分(1)および成分(2)とは異なる作用機序を有する少なくとも1種の他の殺菌・殺カビ剤をさらに含んでなる請求項1に記載の組成物。

【請求項 5】

成分(3)が、菌・カビ性のミトコンドリアの呼吸鎖電子移動部位のbc₁複合体に作用する化合物、ステロール生合成経路のデメチラーゼ酵素に作用する化合物、ならびにステロール生合成経路に作用するモルホリンおよびピペリジン化合物よりなる群から選択される少なくとも1種の殺菌・殺カビ剤を含む請求項4に記載の組成物。

【請求項 6】

植物もしくはその一部、または植物種子もしくは実生に、請求項1に記載の組成物の殺菌・殺カビ的に有効な量を施用することを含んでなる菌・カビ性植物病原体に起因する植物の病気であるうどんこ病の防除方法。

【請求項 7】

植物もしくはその一部、または植物種子もしくは実生に、請求項4に記載の組成物の殺菌・殺カビ的に有効な量を施用することを含んでなる菌・カビ性植物病原体に起因する植物の病気であるうどんこ病の防除方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0088

【補正方法】変更

【補正の内容】

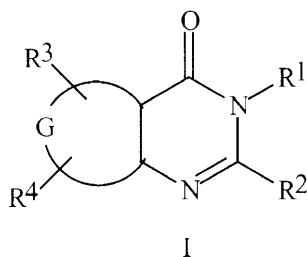
【0088】

コルビー(Colby)が展開した相乗作用の説明に基づけば、本発明の組成物は、相乗的に有用と考えられる。したがって、本発明は農作物、特に穀物における、うどんこ病菌、たとえばコムギうどんこ病菌(Erysiphe graminis)と闘う、改良された方法を提供する。

なお、本発明の主たる態様及び特徴を要約すれば以下のとおりである。

1. (1)式I

【化6】



〔式中、

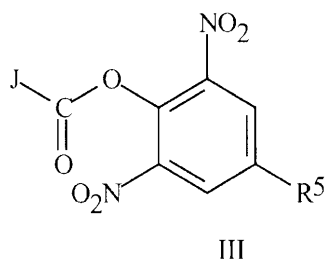
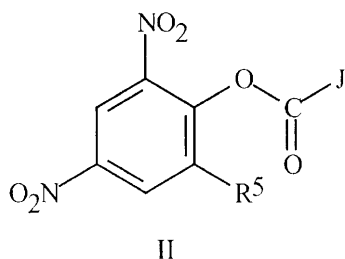
Gは縮合されたフェニル、チオフェンまたはピリジン環であり、

R¹はC₁～C₆アルキルまたはC₄～C₇シクロアルキルアルキルであり、R²はC₁～C₆アルキル、C₁～C₆アルコキシまたはC₁～C₆アルキルチオであり、R³はハロゲンであり、そしてR⁴は水素またはハロゲンである〕

の縮合されたピリミジノン類、N-オキシド類、およびその適する塩類から選択される少なくとも1種の化合物と、

(2) 式 I I の化合物および式 I I I の化合物

【化7】



〔式中、

JはC₁～C₆アルキル、C₁～C₆アルコキシまたはC₂～C₆アルケニルであり、そしてR⁵はC₁～C₈アルキルである〕

よりなる群から選択される少なくとも1種のジニトロフェノール化合物とを含んでなる殺菌・殺カビ組成物。

2. 成分(1)において、R¹がプロピルまたはシクロプロピルメチルであり、R²がプロピルオキシまたはプロピルチオである上記1に記載の組成物。

3. 成分(2)がジノカップにより供給される上記2に記載の組成物。

4. 成分(1)が、

6-プロモ-3-プロピル-2-プロピルオキシ-4(3H)-キナゾリノン、

6,8-ジヨード-3-プロピル-2-プロピルオキシ-4(3H)-キナゾリノン、

6-ヨード-3-プロピル-2-プロピルオキシ-4(3H)-キナゾリノン、

6-クロロ-2-プロポキシ-3-プロピルチエノ[2,3-d]ピリミジン-4(3H)-オン、

6-プロモ-2-プロポキシ-3-プロピルチエノ[2,3-d]ピリミジン-4(3H)-オン、

7-プロモ-2-プロポキシ-3-プロピルチエノ[3,2-d]ピリミジン-4(3H)-オン、

6-プロモ-2-プロポキシ-3-プロピルピリド[2,3-d]ピリミジン-4(3H)-オン、

6,7-ジプロモ-2-プロポキシ-3-プロピルチエノ[3,2-d]ピリミジン-4(3H)-オン、および

3-(シクロプロピルメチル)-6-ヨード-2-(プロピルチオ)ピリド[2,3-

d] ピリミジン - 4 (3 H) - オン、

よりなる群から選択される化合物を含んでなる上記 2 に記載の組成物。

5 . G が縮合されたフェニルまたはチオフェン環であり、 R^1 がプロピルであり、 R^2 がプロピルオキシであり、 R^3 が 6 位の C l、B r または I であり、そして R^4 が水素である

上記 3 に記載の組成物。

6 . 成分 (1) が、

6 - ヨード - 3 - プロピル - 2 - プロピルオキシ - 4 (3 H) - キナゾリノン、または
6 - クロロ - 2 - プロピル - 3 - プロピルチエノ [2 , 3 - d] ピリミジン - 4 (3 H) - オン

を含んでなる上記 3 に記載の組成物。

7 . 成分 (1) が、

6 - ヨード - 3 - プロピル - 2 - プロピルオキシ - 4 (3 H) - キナゾリノン

を含んでなる上記 6 に記載の組成物。

8 . 式 I I の化合物および式 I I I の化合物を含んでなる上記 1 に記載の組成物。

9 . (3) うどんこ病の防除に有用であるが、成分 (1) および成分 (2) とは異なる作用機序を有する少なくとも 1 種の他の殺菌・殺カビ剤をさらに含んでなる上記 1 に記載の組成物。

10 . 成分 (3) が、菌・カビ性のミトコンドリアの呼吸鎖電子移動部位の $b c_1$ 複合体に作用する化合物、ステロール生合成経路のデメチラーゼ酵素に作用する化合物、ならびにステロール生合成経路に作用するモルホリンおよびピペリジン化合物よりなる群から選択される少なくとも 1 種の殺菌・殺カビ剤を含む上記 9 に記載の組成物。

11 . 植物もしくはその一部、または植物種子もしくは実生に、上記 1 に記載の組成物の殺菌・殺カビ的に有効な量を施用することを含んでなる菌・カビ性植物病原体に起因する植物の病気であるうどんこ病の防除方法。

12 . コムギうどんこ病を防除する上記 11 に記載の方法。

13 . 菌・カビ性植物病原体エリシフェ・グラミニス (*E r y s i p h e g r a m i n i s*) を防除する上記 11 に記載の方法。

14 . 植物もしくはその一部、または植物種子もしくは実生に、上記 9 に記載の組成物の殺菌・殺カビ的に有効な量を施用することを含んでなる菌・カビ性植物病原体に起因する植物の病気であるうどんこ病の防除方法。

15 . 組成物の成分 (3) が、菌・カビ性のミトコンドリアの呼吸鎖電子移動部位の $b c_1$ 複合体に作用する化合物、ステロール生合成経路のデメチラーゼ酵素に作用する化合物、ならびにステロール生合成経路に作用するモルホリンおよびピペリジン化合物よりなる群から選択される少なくとも 1 種の殺菌・殺カビ剤を含む上記 14 に記載の方法。